

探究学習入門「富士のさと 中学会議所」

【活動期間】 7月～12月
【実践発表会】 12月15日（日）



○趣旨

地域課題の解決策を中学生の視点で考え、実践することを通して、課題解決力を養うとともに、持続可能な社会づくりに向けて貢献できる人材の育成を目指す。



○参加者

中学生 8名
（1年生4名、2年生2名、3年生2名）
御殿場市 5名 裾野市 1名
富士市 1名 富士宮市 1名

○連携・協力

御殿場市、御殿場市教育委員会、裾野市教育委員会、小山町教育委員会
NPO 法人みらい建設部
ランドブレイン株式会社 今田 大登 氏
株式会社エフエム御殿場 関谷 葉子 氏
静岡大学 特任教授 阿部 耕也 氏
東京家政大学 教授 白木 賢信 氏

○事業の内容

【第1回】7月13日（土）

ねらい	活動内容
<ul style="list-style-type: none"> 本事業の趣旨やめあてについて知り、今後の活動についての見通しをもつ。 フィールドワークやグループワークなど、高校生との活動を通して、地域の魅力や課題について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 開会式、ガイダンス、アイスブレイク フィールドワーク（NPO 法人みらい建設部） ※高校生地域探究プログラム「オリエンテーション合宿」と合同実施 グループワーク『地域の魅力や課題について』

活動の様子

高校生の地域探究プログラムの活動例をもとに探究のプロセスを学んだ後、NPO 法人みらい建設部（裾野市）へフィールドワークに行き、竹の伐採や竹細工、メンマづくり体験をした。フィールドワークを通して竹の魅力や荒廃竹林の課題を考えるとともに、情報発信や課題解決の方法について考えた。



ねらい	活動内容
<ul style="list-style-type: none"> 高校生とともに講義や演習に取り組むことで、探究のプログラムを体感し、探究活動の流れについて見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 講義、演習①『課題解決の基礎』 講義、演習②『地域課題の探究』 ※高校生地域探究プログラム「オリエンテーション合宿」と合同実施 ※NPO 法人みらい建設部の方とともに竹林の魅力や課題を考える。

活動の様子

高校生の地域探究プログラムと一緒に活動したことで、高校生の動きを参考にしながら体験的に探究のプロセスを学ぶことができた。また、実際に環境保全活動に携わる方から話を聞くことで、荒廃竹林の課題解決策や活用方法について多面的・多角的に考えることができた。



【第3回】10月19日（土）

ねらい	活動内容
<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションはどのように行ったらよいのか、ポイントを知る。 御殿場駅周辺のまちづくりについて活動意欲を高める。 活動の内容や日程について、メンバーで話し合って決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 講義、演習『プレゼンテーションの技法について』 【講師】株式会社エフエム御殿場 関谷 葉子氏 御殿場市都市建設部都市整備課からの依頼『御殿場駅周辺を盛り上げるためのアイデアを考えてほしい』 グループワーク『活動グループのメンバー決め』 『活動内容・日程について』

活動の様子

株式会社エフエム御殿場の関谷氏より、プレゼンテーションの技法として、声の出し方や言葉の伝え方について体験を通して学んだ。御殿場市都市建設部都市整備課の方からの依頼を受けた後、2つのグループに分かれ、今後の活動について活動内容や日程について考えた。

御殿場市都市建設部都市整備課の方から、令和5年度「富士のさと 中学会議所」の実践発表での提案が取り入れられ、御殿場駅前の THE GOTEMBAKAN の1階に「きよてんば」が開業されたことを伝えられた。「きよてんば」の活用方法を含め、御殿場駅周辺を盛り上げるためのアイデアを考えていくことに対する意欲を高めた。

【第4回】11月16日（土）

ねらい	活動内容
<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションの資料は、どのようなポイントを意識して作成したら提案内容が伝わるのかを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 講義、演習『プレゼンテーションの資料づくりについて』 【講師】ランドブレイン株式会社 今田 大登 氏 グループワーク『今後の活動について』

活動の様子

ランドブレイン株式会社の今田氏より、プレゼンテーションの資料づくりについて、文字の大きさや色、言葉の使い方など、相手に伝わる資料とはどういうものかを教えていただいた後、グループごとに提案内容についてどのように資料を作成していったらよいのか話し合った。



【アンケートの実施】Aグループ ⇒ 11月 2日(土)「オープンハウス2024」〔交流の家〕
Bグループ ⇒ 11月24日(日)「寄り道マルシェ」〔御殿場駅周辺〕

ねらい	活動内容
<ul style="list-style-type: none"> アンケートやインタビューを行い、市民や観光客の考えを知るとともに、駅周辺の様子について情報収集をする。 	<ul style="list-style-type: none"> イベントに来られた方や市民、観光客の方へアンケートとインタビューの実施 駅周辺の実地調査

活動の様子

各グループでそれぞれのイベントに参加し、イベントに来られた方や市民、観光客へアンケートやインタビューを行った。Bグループについては、イベント参加後にグループワークを行い、アンケートやインタビューした内容を考察し、提案内容について話し合った。



【実践発表会に向けた準備】11月30日(土)、12月1日(日)、12月14日(土)

ねらい	活動内容
<ul style="list-style-type: none"> 実践活動発表会に向けて準備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 実践活動発表会に向けた資料作成、発表練習

活動の様子

役割分担をして取り組んだアンケートや提案を持ち寄り、PCを活用してプレゼンテーション資料や発表原稿の作成に、仲間と協力しながら意欲的に活動する姿が見られた。



【最終回(実践発表会)】12月15日(日)

ねらい	活動内容
<ul style="list-style-type: none"> 参観者に理解、共感してもらえるように資料の活用や発表の仕方を工夫してプレゼンテーションする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実践活動発表会に向けた発表練習、リハーサル 実践活動発表会 ※実践活動発表会后、修了式において修了証書の授与

活動の様子

実践活動発表会前の発表練習では、参観者に自分たちの考えをしっかりと伝えようと、資料の提示や発表の仕方を工夫しながら何度も練習していた。実践活動発表会では、2つのグループに分かれてプレゼンテーションを行い、Aグループは「観光客」に注目して馬刺し祭りを提案し、Bグループは「市民」に注目して勉強スペースのあるカフェと気軽に休憩ができるベンチの設置を提案した。時間が限られる中、日程調整をしながら仲間と協力して提案資料をまとめ、プレゼンテーションの練習に熱心に取り組んだことで、達成感と探究活動への意欲向上が図れた。



【事業後アンケート 一部抜粋】

- 見る人が分かりやすいようにプレゼンテーションの資料を作るのが難しかった。
- 自分たちがやりたいと思ったアイデアについて実際にアンケートを取ってまとめ、提案することができた。
- 途中参加でメンバーには迷惑をかけたけど、他の中学校の人たちと会議をするたびに仲良くなったのでとてもいい経験になった。
- 前までは行動することが苦手だったけど、この活動を通して自信をもてたので、これからの探究活動に生かしていきたい。
- 中学会議所の活動を今、学校で行っている総合的な学習の時間につなげて考えることができた。また、中学2年、3年とこの中学会議所に参加して、仲間と考える大切さや仲間と協力する大切さを知った。

成果と課題

○成果

- 御殿場市都市建設部都市整備課と連携し、テーマやゴールを設定したことは、探究活動への見通しがもて、活動意欲を高めるきっかけとなった。また、実践活動発表会において、参観者からプレゼンテーションに対するご意見、ご感想をいただいたことで、これまでの活動を振り返り、今後の活動への意欲付けにつながった。
- 本事業では、プレゼンテーションの技法や資料づくりについて、講義、演習の時間を設定したことで、見やすさを意識した資料づくりを行ったり、考えや思いが伝わるような発表の仕方を工夫したりしながらプレゼンテーションを行うことができた。
- 地域や学校が違うメンバーではあったが、日常では顔を合わせることがないメンバーと日程を調整しながら活動を進める経験は、責任感を高めるきっかけになった。

●課題

- 本事業においては、御殿場市都市建設部都市整備課の方をはじめ、様々な方にご協力いただいて活動を進めたが、中学生が探究活動を学ぶ場合、スタッフ側でどこまで活動の場を設定したらよいのか、外部との連携体制について検討する必要がある。
- 学校や地域行事、部活動等により、活動日程を設定するのが難しく、グループメンバー全員が集まって活動を進めることができなかったため、協働という観点では弱くなり、特定の参加者の負担が大きくなったため、大部分でスタッフのサポートが必要となった。